

反畑 誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

音楽評論家。

立命館大学産業社会学部客員教授（本講座の他、「企画研究」・専門特殊講義 SK「ポピュラー音楽論」を担当）。

社団法人全国コンサートツアー事業者協会 理事。

日本レコード大賞 常任実行委員。毎日芸術賞推薦委員。

新聞コラム「ヒットの周辺」（京都新聞など 26 紙掲載）など多数執筆中。

FMラジオ「反畑誠一のTHE BIGTIME」（全国コミュニティ FM30 局ネット）のパーソナリティ、テレビ情報番組「うたなび！」（京都放送など 12 局ネット）のナビゲーターを務める。

アジア音楽市場調査・研究の第一人者でもある。



《講義概要》

開講オリエンテーションは、立命館大学産業社会学部の佐藤春吉学部長の挨拶から始まった。学部長は、本講座開講のために寄附をされた 3 団体を紹介。本講座が寄附によって成り立っていることをよく理解し、第一線でご活躍中の素晴らしいゲスト講師のご講義をよく聞いて学習するようにと学生を激励した。

その後、本講座のコーディネーターであり音楽評論家でもある立命館大学客員教授の反畑誠一氏が、講座の歴史や概要、学習目標について説明し、寄附団体の事業内容についても再度紹介した。

続いて反畑氏は、本講座の学習の基礎として、音楽業界の現況を説明し、併せて参考文献も提示。さらに、情報化が進む現代において避けては通れないメディアリテラシーの考え方や、本講座の講義内容のキーワードにもなる最新の時事用語を解説した。また、プロデューサーのあり方に関してビジネスとクリエイティブを役割分担するビジネス構造を認識する必要性を解説しながら、関連して著作権等の基本をよく学習し、理解するよう言及した。

最後に、次回からの講義テーマや講師陣について紹介。貴重な授業に参加できることを実感し、意欲的に学習するよう強く促した。

《受講生の感想》

●この先、講義に来て下さる講師の方々が、私たちがよく知っている業界・企業で活躍していらっしゃる先生ばかりで、エンターテインメント業界への就職を希望している私にとって、とてもワクワクする顔ぶれで、講義に参加するのが楽しみになりました。むしろ、就職活動を始める前に受講しておけばよかった、と少し後悔しています。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●私は昨年の前期と後期もエンタテインメント産業論を受講していました。毎回の授業で様々な業界の第一線で活躍している方々にお会いし、お話を聞くことができて、とても勉強になりました。1年経つと、世界は大きく変わります。昨年と同じ方々でも内容は変わって、タイムリーなお話を聞くことができると思い、また受講することに決めました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●昨年1年間でコンテンツビジネスに関する講義をいくつか受講し、様々な知識を得ました。この講義では実際にコンテンツビジネスの現場をリードする方々のお話を伺えるので、昨年得た知識を活用し、よりリアルで興味深いお話を聞けると思うととてもうれしいです。

立命館大学・映像学部・2回生

●最初に紹介された最新の情報にまつわる用語で、全くわからない用語が沢山あり、デジタルメディアについてある程度の知識を持っていると思い込んでいたことが恥ずかしくなりました。さらに、プロデューサーなどに対するイメージもかなり曖昧なものでしかなく、所有権など、法律に関しても全くの無知であるということが自覚できました。授業を聞くにつれて、とにかくメディアに関することを片っ端から調べたいという意欲がわいたことが今日の収穫だと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●メディア関連の本は何を読めばいいかよく分からなかったのですが、紹介していただけて、とてもうれしいです。メディアについてまだまだ無知なことが多いので、もっとメディアのことについて広くアンテナを張って、自分のものにしていけたらいいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●リテラシーが大切なことが分かったので、積極的にネットを利用したり、大事だと思う資料を切り抜いたりして、たくさんの情報を自分のものにしていきたいです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●インターネットの動画サービスや音楽配信サイトの発展に伴って音楽がより身近になったが、音楽についての著作権について知ることが、音楽業界の発展につながると思う。最近でも改正著作権法などで何かと話題になっているが、この講座を通して著作権について考えていきたい。立命館大学・産業社会学部・2回生

●これからの時代、音楽や映像などのコンテンツに関わるためにはメディアに対する知識が不可欠だと思った。インターネットの普及やCD、DVDなどの作品がデータ化することによって違法コピーやダウンロードという著作権の問題が絶えない現状である。そのような中でコンテンツビジネスに関わっている方々がどのような取り組み、工夫をしているのか非常に興味が湧いた。

立命館大学・映像学部・2回生

●クリエイティブさを追求するだけでなく、ビジネスにおいて収益を生める存在がいなければ音楽などの発展はない、ということが心に残りました。同時にメディアをいかに利用するかが大事であることも実感しました。

立命館大学・法学部・4回生

●音楽や映画や演劇の世界で活躍するプロデューサーの役割に関する講義が興味深かった。やはり、今の時代、世の中の流行・傾向を敏感に読みとることができたり、人材育成能力に優れたクリエイティブプロデューサーと、収益を上げるために宣伝能力や経営能力、また多様化するメディアを利用する能力に優れたビジネスプロデューサーの分業が適正ではないかと考えた。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●今回はメディア媒体を中心とした、経済とビジネスに対する産業構造の立ちまわりについて考える導入をしていただいたと思っています。音楽などの知的財産を保有する権利の重要性を授業を通じて学んでいけたらいいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3回生